

学校現場と医療分野の連携 - 養護教諭との情報交換の懇談会 -

横浜市アレルギーセンター所長

長 坂 裕 博

調査研究「学校現場と医療分野の連携を図るための養護教諭との情報交換会」の平成14年度事業は平成15年2月20日に鎌倉市教育委員会のご協力により実施しました。ご協力いただきました先生方や事務局の皆様改めて感謝申し上げます。

この事業は水原春郎先生が会長をされていた平成4年度より始まり、その後会長となられた酒井糾先生のもとで、神奈川県内各地の学校検尿判定委員会が設置された地域を回り、第一線で活躍されている養護教諭の先生方に腎疾患や学校検尿に関するお話をさせていただくとともに、現場で感じている疑問点やご意見を伺うということで続けてまいりました。

講演の内容は、まず腎臓病について症状から診断・治療に至る過程をお話しし、特に腎臓病は症状が出る前に尿に異常が出やすく、学校検尿ではその中で主に蛋白尿と血尿を指標にしてスクリーニング検査を行っているということをお話しました。そのため、偽陽性と偽陰性は避けられない問題なので、結果の解釈について保護者や学童・生徒の方への説明に役立てていただけるように心がけました。次に学校検尿の流れとそこで発見される尿異常について触れ、特に早朝第一尿の必要性については体位性蛋白尿との関連も含めて、子供さんや保護者の方がその理由を理解して採尿してもらえるような働きかけをお願いしました。さらに、学校検尿で発見される尿異常の半数以上は予後が良好な無症候性血尿であること、また一部に早期発見される腎炎やネフローゼがあることを症例もまじえながら紹介しました。

一方、私が横浜市学校検尿の「検尿陽性者保護者説明会」の個別相談やアンケート調査で経験し

た、検尿陽性者の不安や意見をお伝えするとともに、保護者がそうした不安に対する相談相手として養護教諭の先生方に一番期待しているということをお話し、クラスに一人程度の一次検尿陽性者と学校に一人程度の二次検尿陽性者へのフォローとサポートをお願いしました。そして、最後に実際に担当している子供さんに関する質問や意見交換をして閉会するという流れでやってきました。

座間市に始まり、小田原市、綾瀬市、平塚市(吉田義幸先生担当)、横浜市、海老名市、県立高校横浜中地区、大和市、秦野市、そして鎌倉市と続けてまいりましたが、ここで一区切りをつけさせていただくことになりました。

平成15年度からは小坂橋 靖先生が会長となられ新たな体制になりましたので、生駒雅昭先生にバトンタッチさせていただき、新しい観点からこの調査研究に取り組んでいただけないかと思えます。

これまで長い間お世話になりました事務局のかたがたや各自治体の教育委員会の関係者の皆様、そして養護教諭の先生方に重ねてお礼申し上げます。

